



入四間村門前町割図

右馬允

うまのじょう

特別展示 庄屋・関右馬允が向き合った日立の600年

2024年9月21日[土]—11月4日[月・祝] *休館日：9月30日(月)、10月28日(月)
9:30—16:30(入館は16:00まで)

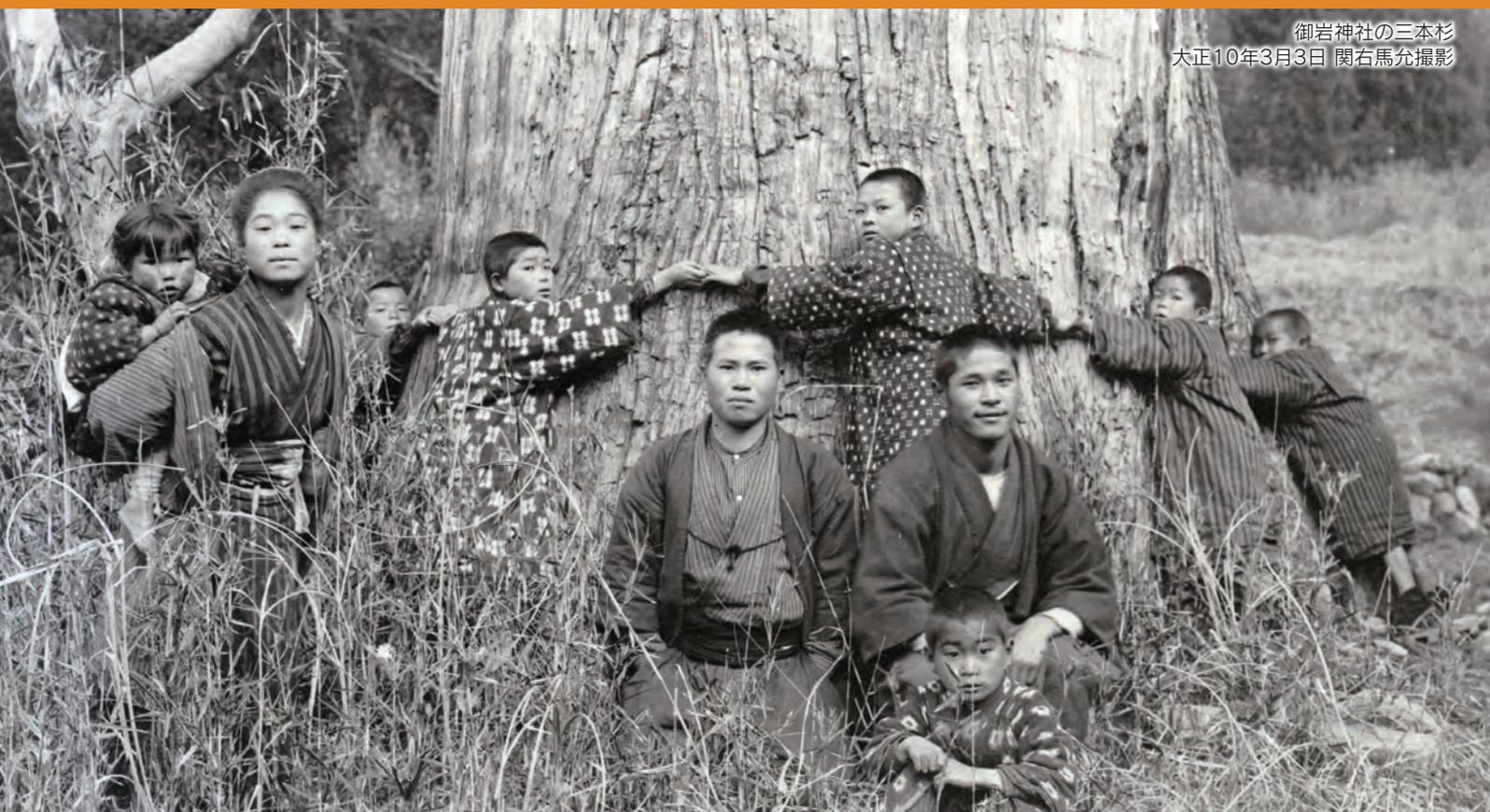
観覧料=無料

主催：日立市郷土博物館
協力：ひたち巨樹の会・日立市郷土博物館歴史資料整理ボランティア

かみね公園入口

日立市郷土博物館

〒317-0055 茨城県日立市宮田町5-2-22
Tel.0294-23-3231 Fax.0294-23-3230



御岩神社の三本杉
大正10年3月3日 関右馬允撮影

特別展示 庄屋・関右馬允が向き合った日立の600年

関家は中世武家の系譜を引き、南北朝期に奥州白河から久慈郡入四間に移りました。近世には入四間村の庄屋として指導的な役割を果たし、また、御岩神社の世話役（年寄）でもあったため、関家は藩主参詣の際の宿舎となっています。水戸藩の殖産政策にも積極的に協力し、幕末には徳川斉昭の無実を訴え藩政への復帰を願う改革派として活動し、明治2年に郷士に起用されました。

関家の当主は代々「右馬允」を襲名していますが、特筆されるのは第15代右馬允（1888～1973）です。日立鉱山の煙害問題に際して被害調査や補償交渉に奔走し、新田次郎の小説「ある町の高い煙突」で主人公のモデルとして広く知られることになった彼は、社会的・文化的活動を通じて様々な文化人、芸術家、研究者、政府や陸海軍の要人などと幅広い交流を持ちました。

また大正10年にカメラを購入した彼は、山林等の煙害の記録ばかりでなく、巨樹に関心を持って、茨城県内をくまなく探索し撮影しました。さらに家族や自らが生活した入四間の人々と暮らし、日立地方の産業や各地の風物など広範囲の被写体にレンズを向け、半世紀にわたって写真を撮り続けたのです。彼が残した5万コマに及ぶ写真はそのすべてに日付が付されおり、貴重な歴史資料となっています。

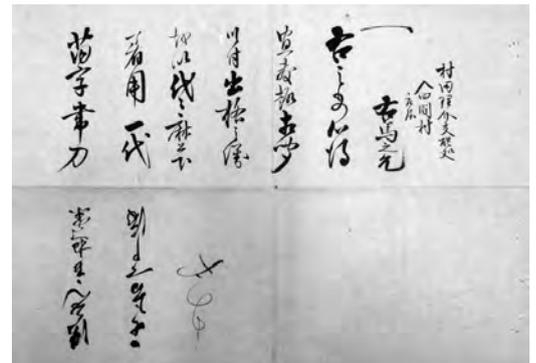
この展覧会は関家所蔵資料を中心に、中世から近現代にいたるまで約600年に渡って土豪・庄屋・郷士などとして地域で指導的な役割を果たしてきた関家の歩みと入四間および日立地方の歴史を辿りつつ、第15代右馬允の活躍とその歴史的・地域的・文化的な背景をご覧いただくというものです。



伊達政宗書状



関家念持仏



代々麻上下着用一代苗字帯刀御免



入四間村山内並全村絵図（部分）



斉昭より拝領の羽織

■関連催事

(1) 展示解説

関家所蔵の展示史料から日立地方の歴史を読み解きます。中世・近世の古文書の見方、読み方を初心者向けに平易に解説し、講座終了後に展示解説を行います。

ア 「伊達政宗書状」と佐竹氏・伊達氏

日時：9月29日（日）午前10時～11時30分

イ 「徳川斉昭書状」と斉昭の日立地方巡村

日時：10月13日（日）午前10時～11時30分

講師：当館研究員

会場：日立市郷土博物館集会室・特別展示室

受講料：各50円（資料代）

定員：各先着20人

(2) 講座「関右馬允が撮った巨樹写真とその後」

関右馬允は『茨城県巨樹老木誌』において302点の巨樹の写真を残しています。これらの写真には、巨樹の脇に立つ持ち主や関係者、時には撮影者である右馬允自身が写っているものもあります。右馬允が撮影した巨樹写真と、後年の写真を対比し、右馬允が記した由緒などを紹介します。

日時：10月6日（日）午前10時～11時00分

講師：宇梶秀夫さん（ひたち巨樹の会）

会場：日立市郷土博物館集会室

受講料：50円（資料代）

定員：先着30人

【参加申込み】(1)(2)とも9月13日（金）午前9時から郷土博物館で電話受付

かみね公園入口

日立市郷土博物館

〒317-0055 茨城県日立市宮田町5-2-22
Tel.0294-23-3231 Fax.0294-23-3230

交通

JR常磐線日立駅中央口よりバスに乗り、「かみね公園口」下車。徒歩1分。
常磐自動車道日立中央I.C.から10分。

博物館脇に6台分程の駐車場がございますが、満車の場合はかみね公園駐車場をご利用ください。

